

令和5年度 自己評価書

学校名	和歌山市立大新小学校
作成日	令和6年2月13日

1 教育目標

豊かな情操とまろやかな英知を育み、たくましく生きる子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査における正答率について県平均を目指す 児童アンケートの「私は毎日の勉強がわかる」の項目で「そう思う」「まあそう思う」引き続き90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「私は学校が楽しい」の項目で「そう思う」「まあそう思う」95%以上 児童アンケートの「命の大切さや社会のきまりを守る態度の教育」で「あまりそう思わない」0% 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室が実施する元気大作戦(生活アンケート)で運動や体を動かす遊びの達成率90% 元気大作戦で睡眠時間の達成率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「学校の様子を、わかりやすく伝えている。」の項目で「そう思う」「まあそう思う」85% 地域や公民館などと連携した取組を、各学年1つ以上実施
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い学習を取り入れた授業づくり 書く活動の推進 読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、人権教育の充実 やさしさ、思いやりを持った子供の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 気力・体力の充実した子供の育成 健康・安全についての知識と習慣の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報公開の推進 保護者や地域、関係機関との協力・連携の深化 学校運営協議会制度の活用
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 活発な話し合い学習になるための確かなねらいを捉える工夫(課題・展開・学習形態・教師の関わり方等)を行う。 様々な方法で書く活動を取り入れた授業を行う。 学級文庫、うちどく図書、学校図書館の本を利用して、学校全体で積極的に読書活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的実践力を身に付けさせるため、道徳の時間の充実に努める。 全校で人権意識を高めるため、人権をテーマにした授業を実施する。 やさしい心根を育成するため、全校縦割り(なかよし)活動や青少年赤十字活動の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康維持及び体力の向上を目指し、年間を通じての朝マラソンやなわとびの取組を行う。 手洗いがとうがい、また、外部機関との連携を図り、食後の歯磨きの習慣化に努める。 生活リズムの安定を図るため、「元気大作戦(生活アンケート)」を通して基本的生活習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・学年だよりや学校ホームページ等を活用して適宜、情報発信を行う。 大新太鼓、読み聞かせ等、学校ボランティアやゲストティーチャーなど外部講師を積極的に活用する。 大新クラブ、公民館、婦人会等、地域との積極的な交流を進める。
取組の成果と課題(評価結果【C】)	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査の国語・算数は、4・5年生ともに県平均を上回ることができた。 児童アンケートの「私は毎日の勉強がわかる」の項目で90%の児童が肯定的な回答であったが、一方で「あまりそう思わない」と答えた児童が9%いた。理解が進んでいない児童に対する個別の支援を更に充実させる必要がある。 学校司書や図書ボランティアの皆様の協力で、季節・行事に合った本の紹介や環境づくりに取り組むことができ、子供たちの読書への興味・関心の深まりがみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「私は学校が楽しい」の項目で「思わない、あまりそう思わない」が5%あった。楽しく感じない要因をとらえ、創意工夫した教育課程となるよう改善していく。 「命の大切さや社会のきまりを守る態度の教育」で肯定的な回答が95%であったが、「あまりそう思わない」が2%であった。実践内容の見直しを図り、もう一歩踏み込んだ取組をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動や体を動かす遊びは、5月80.7%、9月86.6%、1月には88.1%となり、90%には届かなかったが、増加傾向に見られた。 今年度も、地域の方の協力を得て、個別対応した丁寧な歯磨き指導をいただき、歯磨きが習慣化している。そして、「よい歯の表彰」を受けることができた。 「テレビやゲームを含む携帯電話、スマートフォン、SNSの利用時間をまもることができた」のアンケートに、年間を通して77.6～79.4%と改善が見られなかった。また、「寝る1時間前にはテレビ・ゲームやスマホをやめた」の項目には、年間を通して70%に達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の様子を、わかりやすく伝えている。」の項目で「そう思う」は38%、「まあそう思う。」が51%の評価をいただいた。さらに、保護者や地域の方の立場に立った、わかりやすい内容の発信に努める。 体験教室や図書ボランティア、ふれあい食事会、見守り隊などたくさんの連携・協力をいただいた。子供たちは学校の教育活動では体験できない経験をさせていただいた。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 一層の楽しい授業、楽しい活動になるよう研究工夫を行い、授業改善に取り組む。 今年度配布の和歌山市自主学習ノート大新小学校版『学びのあしあと』をもとに、子供が自主的に学習を深められるよう引き続き指導する。 自主学習が家庭でも定着するよう、家庭への協力や啓発を懇談会やお知らせなどで進める。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての子供が「学校は楽しい」と感じられる学校を目指し、一人一人に寄り添った対応や声掛けを行う。 指導が必要な場面で即座に対応するとともに、関連する教材で学習を深め、子供の人権意識や思いやりを高める取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力や健康への意識を定着させるために、全校縦割り(なかよし)活動の取組を継続させる。 元気大作戦を通じて、ゲームやスマホ・タブレットに関連する家庭での生活習慣について保護者への啓発を更に進め、連携して取組を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの各種配布物やホームページを活用し、教育用語や行事、子供たちの様子などについて積極的に発信する。 外部講師や地域の方々とともに、子供たちが豊かな学びや体験活動が行えるよう、行事を精査しながら充実した教育活動を行う。

3

新型コロナウイルスが5類感染症となり、ようやく学校行事に以前のような活気が戻ってきた。と同時に、文部科学省や和歌山市教育委員会から授業時数の見直しの課題が各学校に下りてきている。限られた時間の中で、より充実した教育課程に取り組んでいくために、家庭や地域の方々の協力が必要不可欠である。また、地域の方々との交流は子供たちにとって有意義な時間である。来年度は、今まで以上に外部関係機関・関係者との連携を図りながら、一層楽しい学校、楽しい教育活動に子供たちが感じられるよう取組を進めていく。